

地域環境権



「飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例」を制定
(H25.4.1)

目的 市域の豊富な再生可能エネルギー（再エネ）資源と地域の「結い」を活用して低炭素で活力ある地域づくりを実現

⇒再エネによる電気の全量固定価格買取制度(FIT)を地域で公共的に利活用する制度を構築

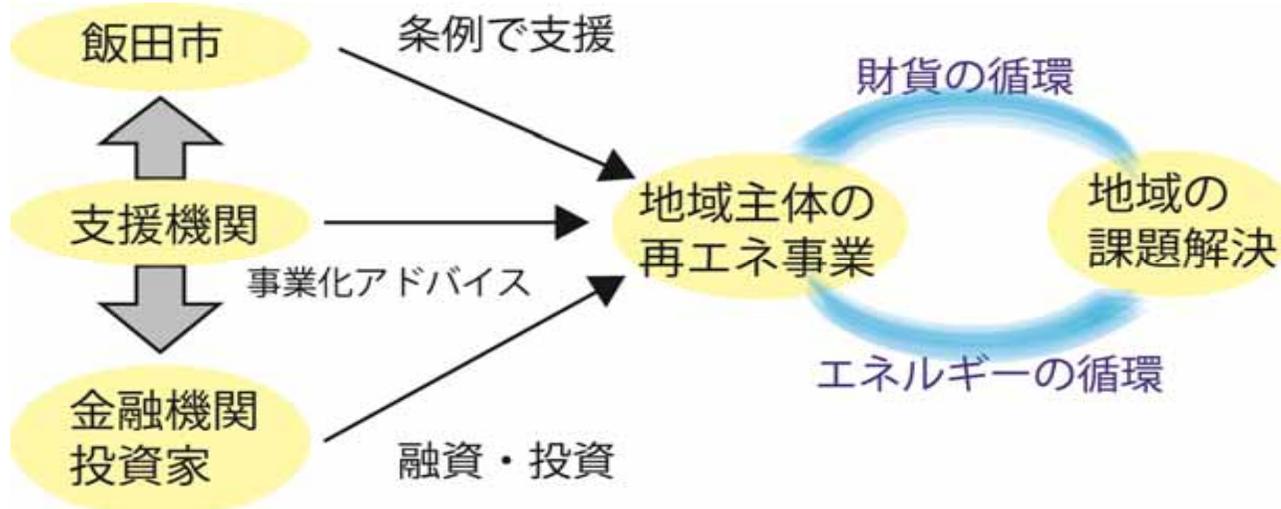
⇒再エネ資源の活用と市民・公共的団体等・行政とのかかわりを明確化

地域環境権

全国初！！

再エネ資源から生まれるエネルギーを市民共有の財産と捉え、
市民には、これを優先的に活用して地域づくりをする権利がある。

市民を中心とする多様な主体が取り組む再エネによる地域づくり事業を公民協働事業として支援。



利益を地域に還元

例えば

- ・児童クラブの運営
- ・バスの増便
- ・地域への医者への派遣

…など

上村プロジェクトにおける「入口政策」と「出口政策」



出口政策

コミュニティ
ビジネスの
起業と収益の
持続的
地域再投資

地域環境権による
小水力発電

上村地区の実態

H17.10	人口	700人	世帯数	282
H24.4	人口	500人	世帯数	219

入口政策

地域の持続可能性
を重視した
政策的判断

上村保育園

平成24年4月現在の園児数は、3人。
このままいくと、平成25年4月には1人となっ
てしまい閉園となる危機にたたされていた

市の支援策
年間維持費
約300万円

平成26.4月に園児数7人へ

保育園を維持することにより、子育て世代の定着に
つながる。
地域が持続可能的に維持・発展する。

千代地区

H26.4月末現在

人口	1812人
世帯数	607戸
高齢化率	40.6%

日本の棚田百選

よこね田んぼ

千栄保育園はH15～16年の2年間、園児が10人を下回ったことから、公立保育園として維持が難しい状況になった。

体験教育旅行



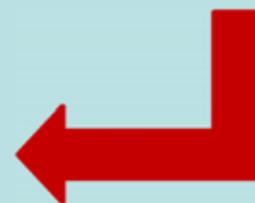
日本のランドオペレータの草分け的存在である(株)南信州観光公社による体験教育旅行
H25年度 約100校15000人を受入



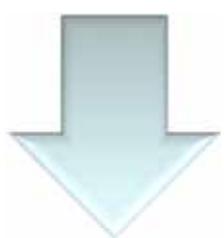
園児数の減少

	元	11	12	13	14	15	16	17
千代	55	30	31	33	32	33	31	32
千栄	28	16	19	18	11	9	8	6
計	83	46	50	51	43	42	39	38

	A案	B案
千代保育園	2園統合	民営化
千栄保育園	廃止	分園



県の補助金
打ち切り



地域を挙げた検討と準備

基本財産1000万円余を地域
住民1戸1万円の寄付などで調達

社会福祉法人
千代しゃくなげの会の設立
(H17.10.12 県知事認可)

- H17.11.1 千代保育園経営移管記念行事
- H18.4.1 千栄保育園分園化
千代保育園で長時間保育開始
- H18.5.1 子育てサロン開所
- H19.4.1 未満児保育開始
- H23.4.5 千代デイサービスセンター
「しゃくなげの郷」開業

社会福祉法人 千代しゃくなげの会



< 千代しゃくなげの会基本理念のポイント >

- 1 地区一人一人が直接的又は間接的に運用に関与
- 2 地域の子どもやお年寄り地域で守り育てる



- 千代保育園
- 千栄分園

●平成24年度、25年度の2年連続
50名を超えたため、26年度は定員
を45名から60名に変更

園児数の推移

	17	18	19	20	21	22	23	24	25
千代 (3歳以上)	36	31	31	25	22	23	24	28	28
千代 (3歳未満)			3	3	6	8	12	14	17
千栄	6	11	12	16	14	12	9	11	12
総合計	42	42	46	44	42	43	45	53	57

飯田市千代デイサービスセンター 「しゃくなげの郷」
通所デイサービス 定員15名

各世代がいきいきと輝き、地域の活性化に

～ 千代しゃくなげ会の活動がもたらしたもの ～



< 保育園児 >

長時間保育や未満児保育も実現

< 小学生 >

小学生の学童保育(放課後、夏休み)も開始

< 子育て世代 >

地域外で生活する親子が地域に帰って来るようになった
家庭の子育て、介護への不安が減ってきた

< 高齢者 >

地域内のデイサービスに喜んで通う
高齢者が増えた
入所者と保育園児の交流で、笑顔が増えた